



ヨゼフ アベイヤ 司教認可  
発行所 福岡教区本部  
福岡市中央区浄水通6-28  
発行人  
カトリック福岡教区  
編集人 下町豊重  
TEL 092-522-4059  
FAX 092-523-2152  
振替口座 01760-6-20729  
カトリック福岡教区  
定価 一部70円

2月の意向  
【教皇様の意向のために祈りましょう】  
【教皇の意向】 修道女と奉獻生活に召された女性  
【日本の教会】 若者たち

### 長崎大司教区 新大司教に中村倫明補佐司教任命

2021年12月28日、教皇フランシスコは、長崎教区の高見三明大司教の退任願いを受理し、中村倫明補佐司教を長崎教区大司教に任命した。  
着座式は、2022年2月23日(水・祝)午前10時30分より浦上司教座聖堂においてミサの中で行われる。



＜略歴＞  
1962年3月21日長崎県大島町(現西海市)生まれ。太田尾教会出身。  
1988年3月19日浦上教会にて司教叙階。  
1988年4月長崎公教神学校(現長崎カトリック神学院)養成者、1989年中町教会助任を務めた後1991年ローマ留学。帰国後は1994年長崎カトリック神学院、1999年4月浦上教会助任、2002年4月時津教会主任を務め、2005年4月からは福岡サン・スルピス大神学院で養成者として教鞭を取る。その後2007年からは植松教会、三浦町教会主任として司牧。2019年5月長崎教区補佐司教に任命される。

1月下旬、神学院の畑では数百年のダイコンが収穫を待っている。旬を過ぎたのは種まきが遅かったせいである。「収穫は多いが働き手は少ない」。そう思いながらひとり畑仕事をしている。神学生たちが「手伝いませよ



『ひとり』か『みんな』か  
『ひとり』作業をしながら考える

司教召命の減少が年々深刻化する現代。そこにある課題や抱える問題について、福岡カトリック神学院院長である牧山強美神父に話を聞いた。  
「司教の独身制は、『ひとり』でいることを意味してはいない。より多くの人と一緒に歩むためのもの」と、司祭の共同生活や共同司牧の再考を提議する牧山神父の言葉と、「ともに歩む教会のため」交わり、参加、そして「宣教」という、昨年10月より歩みの始まった第16回通常シノドスのテーマが重なる。

## 「ひとり」か「みんな」か 福岡カトリック神学院 牧山 強美

「ひとり」と声をかけてくれる時がくまればある。嬉しいがとまどいもある。手伝ってもらうためには、作業内容を説明し理解してもらい手本を示す必要がある。あれやこれやと手ほどきをしていると自分ひとりでするよりも手間がかかってしまうことになる。さて、この紙面を通じて一緒に考えたいのは、「ひとり」でやるかみんなでやるか、についてである。ごく普通の問いであるが、再考の価値はあると思う。もちろん、時と場合、行為の目的や対象によって答えはちがってくる。

神学院では、合議制を大切にしており、多くの事が話し合いで決められていく。思いや意見の違いがあり、結論を導きだすのに困難な場面も多い。担当者ひとりが決めてもスムーズに事が運ぶ場合もある。教区における司教、小教区における主任司教、家庭における母(父)親など、実際に実権を握っていると思われる。誰かを容易に想像することができない。物事がなかなか決まらないうと誰かがその人に「あなたが決めてください」と言う。しかし、その人が決めてその結果次第では「自分が決めたのではない」と言う人も出てきて、責任は誰にあるか問うような議論になる。

### 2月11日 世界病者の日

「世界病者の日」は、聖ヨハネ・パウロ二世によって1993年に定められ、毎年教皇メッセージが発表されます。  
病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な援助を得られるように、カトリックの医療関係者のみならず、広く社会一般に訴えていくことが大きな課題です。  
※教皇メッセージは下記URLか右記QRコードよりご覧いただけます。  
<https://www.cbci.catholic.jp/2022/01/24/23875/>  
(外部リンク：カトリック中央協議会)

自分ひとりでするのではなく、自分ひとりで決めて自分ひとりで実行し、そして当然、責任もその人自身にある、と考える風潮がある。新型コロナウイルス感染拡大はそういう風潮を後押ししている。決めるという行為は、人間の自由が有して

「ともに歩む教会のため」交わり、参加、そして「宣教」というシノドスのテーマは、「ひとり」から「みんな」への方向転換を促している。司祭に叙階されて数年も経つと司祭はひとりでする生活するようになる。司祭も人であるならば、やはり「ひとり」でいるのは良くない。司祭の独身制は、「ひとり」でいることを意味してはいない。より多くの人と一緒に歩むためのもの。司祭不足は深刻だが、あえて司祭の共同生活や共同司牧が再び議論されてもよいと思う。

ともに歩む、交わる、参加する。ここに人間の美しさや喜び、幸せが秘められている。そういう教会こそ「私も一緒に」と人が集まってくるのだらうと思う。そんなことを、ひとり畑仕事をしながら考えている。

「あ！神さまだ！...」と男の子に声をかけられた。それは、東京の新川沿いを散歩している時のことだった。「神様ではなくシスターですよ」と答えると、いきなり、3人の男の子の一人が「イエスさまはね、十字架に掛かれて死んだけど、三日目に復活したんだよ」と言っていた。「へーどこで教えてもらったの？」カトリック幼稚園「どこ？」九州のカトリック幼稚園

「僕、主の祈りも知ってるよ」と彼は祈り始めた。話を聴くと、現在小学五年生で、一年生の時東京に越してきたとのこと。五年前に教わったことをすっかり覚えていた。今まで、出会った子どもたちはみんな、クリスマスについて話してくれなかった。その子は主の復活について話してくれた。勿論、クリスマスも覚えていて、自分は三人の博士を演じたとも言う。幼児教育の大切さを、しばしばこのように感じることがある。成人したらカトリック教会に行くこと約束して別れた。私たちの修道会は2022年で日本における宣教活動は70周年を迎える。中国から追放されたイタリア人のシスターたちには故深堀仙右衛門司教様のお招きで福岡の美野島で幼稚園を始めた。日本語の分からないシスターたちは大変な苦勞をしながら教育事業を始めた。そしていまがある。神さまの計らいで大切な幼児教育を続けてこられたことに深く感謝している。

### 1月11日(火)、カテドラル大名町教会には約50人の司祭が聖堂に座した。



新しいミサの式次第の冊子を手伝い、説明を行う嘉松宏樹神父

教会の屋の祈りを全員で唱えた後、アベイヤ司教からの挨拶があった。司教は司祭達の日頃の労をねぎらい、「これから熱意をもって宣教司牧に励んでほしい」と語った。その後、教区内で予定されている司祭叙階式など重要事項

極寒の候、そぼ降る雨の中、教区内司祭がカテドラル大名町教会に集まった。三ヶ月ぶりの再会に皆笑顔があふれていた。マスク着用、密を避けた聖堂で行われた集会では、司祭の生活に直結する事柄が話され、司祭達の耳が研ぎ澄まされたひとときとなった。

「僕、主の祈りも知ってるよ」と彼は祈り始めた。話を聴くと、現在小学五年生で、一年生の時東京に越してきたとのこと。五年前に教わったことをすっかり覚えていた。今まで、出会った子どもたちはみんな、クリスマスについて話してくれなかった。その子は主の復活について話してくれた。勿論、クリスマスも覚えていて、自分は三人の博士を演じたとも言う。幼児教育の大切さを、しばしばこのように感じることがある。成人したらカトリック教会に行くこと約束して別れた。私たちの修道会は2022年で日本における宣教活動は70周年を迎える。中国から追放されたイタリア人のシスターたちには故深堀仙右衛門司教様のお招きで福岡の美野島で幼稚園を始めた。日本語の分からないシスターたちは大変な苦勞をしながら教育事業を始めた。そしていまがある。神さまの計らいで大切な幼児教育を続けてこられたことに深く感謝している。

最後に「聖体賛美式」が荘厳に行われ、会場は祈りの雰囲気変わった。「ラウダ・テ・ドミナム・オムネス・ゼンテス(すべての民よ、主を礼拝せよ)」の聖歌を共に歌い、沈黙の内に再会を感謝したり、召命を願ったり、死者の永遠の幸福を祈った。そして聖体からの祝福をいただき、三々五々帰途に着いた。

議題に入り、初めは福岡教区経済問題評議会委員の岩村清貴氏(大名町教会)から、「司祭給与の見直しを含む教区財政について(案)」が説明された。岩村氏は「現状の司祭給与の見直しや宣教司牧の費用、神学校援助金は必要であるが、それに伴う財源の問題が絡んでくる。財源を確保するには、例えば学校法人地代徴収や、各小教区、宗教法人幼稚園等の分担金増の協力などが考えられる。そのための司祭団の共通認識と教区民の理解が求められる」と語った。これについて、まずは各地区の司祭集会で時間をかけて話

に言及し、共通認識を持つて取り組んでいくようにと促した。議題に入り、初めは福岡教区経済問題評議会委員の岩村清貴氏(大名町教会)から、「司祭給与の見直しを含む教区財政について(案)」が説明された。岩村氏は「現状の司祭給与の見直しや宣教司牧の費用、神学校援助金は必要であるが、それに伴う財源の問題が絡んでくる。財源を確保するには、例えば学校法人地代徴収や、各小教区、宗教法人幼稚園等の分担金増の協力などが考えられる。そのための司祭団の共通認識と教区民の理解が求められる」と語った。これについて、まずは各地区の司祭集会で時間をかけて話

それは野球を始めた時から変わっていないことであつた。幼い頃からそのような環境に育つていれば誰しもそのようなことになることだろう。確かに環境は人を変えることもあり、良い方にも悪い方にも導いてしまう。「自分が変われば周りも変わる」という言葉をよく耳にする。悪い状況で意気消沈してしまうか、光を求め、頭をもたげて突き進むと自分を鼓舞するか、気持ちの持ち様で自分を変えていくと周りの変化に気がつくことがあるという。いずれにせよ、自分を振り返り、自分の歩みを確認しながら進んでいくことが大切だろう。もし、自分にある汚点に気づいたら放っておかず、直すように傾注すること。そして「道であり、真理であり、命である」(ヨハネ14章6節)主キリストに従っていくことだ。きっと、周りに聖母マリアや聖人達、天使達が見守っていてくれることに気づき、感謝の念に包まれるに違いない。生え出た信仰の芽が花を開き、実を結びますように。(S)

「僕、主の祈りも知ってるよ」と彼は祈り始めた。話を聴くと、現在小学五年生で、一年生の時東京に越してきたとのこと。五年前に教わったことをすっかり覚えていた。今まで、出会った子どもたちはみんな、クリスマスについて話してくれなかった。その子は主の復活について話してくれた。勿論、クリスマスも覚えていて、自分は三人の博士を演じたとも言う。幼児教育の大切さを、しばしばこのように感じることがある。成人したらカトリック教会に行くこと約束して別れた。私たちの修道会は2022年で日本における宣教活動は70周年を迎える。中国から追放されたイタリア人のシスターたちには故深堀仙右衛門司教様のお招きで福岡の美野島で幼稚園を始めた。日本語の分からないシスターたちは大変な苦勞をしながら教育事業を始めた。そしていまがある。神さまの計らいで大切な幼児教育を続けてこられたことに深く感謝している。

「僕、主の祈りも知ってるよ」と彼は祈り始めた。話を聴くと、現在小学五年生で、一年生の時東京に越してきたとのこと。五年前に教わったことをすっかり覚えていた。今まで、出会った子どもたちはみんな、クリスマスについて話してくれなかった。その子は主の復活について話してくれた。勿論、クリスマスも覚えていて、自分は三人の博士を演じたとも言う。幼児教育の大切さを、しばしばこのように感じることがある。成人したらカトリック教会に行くこと約束して別れた。私たちの修道会は2022年で日本における宣教活動は70周年を迎える。中国から追放されたイタリア人のシスターたちには故深堀仙右衛門司教様のお招きで福岡の美野島で幼稚園を始めた。日本語の分からないシスターたちは大変な苦勞をしながら教育事業を始めた。そしていまがある。神さまの計らいで大切な幼児教育を続けてこられたことに深く感謝している。

「あ！神さまだ！...」と男の子に声をかけられた。それは、東京の新川沿いを散歩している時のことだった。「神様ではなくシスターですよ」と答えると、いきなり、3人の男の子の一人が「イエスさまはね、十字架に掛かれて死んだけど、三日目に復活したんだよ」と言っていた。「へーどこで教えてもらったの？」カトリック幼稚園「どこ？」九州のカトリック幼稚園

「僕、主の祈りも知ってるよ」と彼は祈り始めた。話を聴くと、現在小学五年生で、一年生の時東京に越してきたとのこと。五年前に教わったことをすっかり覚えていた。今まで、出会った子どもたちはみんな、クリスマスについて話してくれなかった。その子は主の復活について話してくれた。勿論、クリスマスも覚えていて、自分は三人の博士を演じたとも言う。幼児教育の大切さを、しばしばこのように感じることがある。成人したらカトリック教会に行くこと約束して別れた。私たちの修道会は2022年で日本における宣教活動は70周年を迎える。中国から追放されたイタリア人のシスターたちには故深堀仙右衛門司教様のお招きで福岡の美野島で幼稚園を始めた。日本語の分からないシスターたちは大変な苦勞をしながら教育事業を始めた。そしていまがある。神さまの計らいで大切な幼児教育を続けてこられたことに深く感謝している。

「僕、主の祈りも知ってるよ」と彼は祈り始めた。話を聴くと、現在小学五年生で、一年生の時東京に越してきたとのこと。五年前に教わったことをすっかり覚えていた。今まで、出会った子どもたちはみんな、クリスマスについて話してくれなかった。その子は主の復活について話してくれた。勿論、クリスマスも覚えていて、自分は三人の博士を演じたとも言う。幼児教育の大切さを、しばしばこのように感じることがある。成人したらカトリック教会に行くこと約束して別れた。私たちの修道会は2022年で日本における宣教活動は70周年を迎える。中国から追放されたイタリア人のシスターたちには故深堀仙右衛門司教様のお招きで福岡の美野島で幼稚園を始めた。日本語の分からないシスターたちは大変な苦勞をしながら教育事業を始めた。そしていまがある。神さまの計らいで大切な幼児教育を続けてこられたことに深く感謝している。

## 時の話題

### 修道生活の喜び ～奉獻生活の日に～

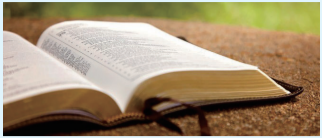
架に掛けられて死んだけど、三日目に復活したんだよ」と言っていた。「へーどこで教えてもらったの？」カトリック幼稚園「どこ？」九州のカトリック幼稚園

「僕、主の祈りも知ってるよ」と彼は祈り始めた。話を聴くと、現在小学五年生で、一年生の時東京に越してきたとのこと。五年前に教わったことをすっかり覚えていた。今まで、出会った子どもたちはみんな、クリスマスについて話してくれなかった。その子は主の復活について話してくれた。勿論、クリスマスも覚えていて、自分は三人の博士を演じたとも言う。幼児教育の大切さを、しばしばこのように感じることがある。成人したらカトリック教会に行くこと約束して別れた。私たちの修道会は2022年で日本における宣教活動は70周年を迎える。中国から追放されたイタリア人のシスターたちには故深堀仙右衛門司教様のお招きで福岡の美野島で幼稚園を始めた。日本語の分からないシスターたちは大変な苦勞をしながら教育事業を始めた。そしていまがある。神さまの計らいで大切な幼児教育を続けてこられたことに深く感謝している。

「僕、主の祈りも知ってるよ」と彼は祈り始めた。話を聴くと、現在小学五年生で、一年生の時東京に越してきたとのこと。五年前に教わったことをすっかり覚えていた。今まで、出会った子どもたちはみんな、クリスマスについて話してくれなかった。その子は主の復活について話してくれた。勿論、クリスマスも覚えていて、自分は三人の博士を演じたとも言う。幼児教育の大切さを、しばしばこのように感じることがある。成人したらカトリック教会に行くこと約束して別れた。私たちの修道会は2022年で日本における宣教活動は70周年を迎える。中国から追放されたイタリア人のシスターたちには故深堀仙右衛門司教様のお招きで福岡の美野島で幼稚園を始めた。日本語の分からないシスターたちは大変な苦勞をしながら教育事業を始めた。そしていまがある。神さまの計らいで大切な幼児教育を続けてこられたことに深く感謝している。



～ 聖書週間から聖書習慣へ ～



毎年11月、聖書に親しみ、聖書をより正しく理解するため「聖書週間」として運動が行われます。聖書に「より強い関心を持ち、親しみ、神の心に生きる」ようになるためにも、年に一回の機会だけでなく、常に「聖書習慣」を身に付けることを実践したいものです。今後、福岡教区でそのような集いを行っているグループを紹介していきたい思います。

「聖書の分かち合い」に参加して

私は十年来、聖書の分かち合いグループの活動にたずさわっています。毎月第2土曜に2時間ほど、約8人のメンバーがイエズス会福岡修道院に集っています。

コロナ禍で対面集会が難しくなってきたからはオンライン会議形式を導入しました。公開ミサがない期間は本当に大きな心の支えになりましたし、遠方に転居した人や入院中の人も参加できるメリットがありました。最近は写真の通り、対面と遠隔を併用しています。毎回の集いでしていることは、主日の福音を読み、今の自分にとって心に響いた箇所や気になったことを一人ずつ言っていくという、ごくシンプルなものです。人の話を聞いていて新たな気づきや生まれるので、次はそれを言葉にして、2週目、3週目と分かち合いを重ねていきます。大切にしているのはとことん沈黙の時間を取り、自分の心の動きを味わって、それを分かち合うことです。み言葉について理解することよりも、み言葉を味わうことを意識しています。

味わいは分かち合うことで、どんどん豊かになっていきます。よく知っていると思っていたみ言葉にも必ず新しい響きや生まれ、聖書の場面が鮮やかなイメージとなって浮かび上がってきたり、厳しい言葉と感じていたところが180度違って見えてきたりします。しかも不思議なことに、参加者はそれぞれ異なる背景を持ち、分かち合われる内容も様々なのに、集いの後には「同じものを味わった」という感覚が残ります。まさに一つのパンをみんなで食べたように。

このグループに出会う以前の私は、「分かち合い」という場でキラキラした素敵な言葉を言いがちでした。でも、そのような言葉はやがて消えてしまう儚いものでした。今は食卓のような分かち合いで味わったことがいつまでも心に残り、生活の糧、自分の肉となるように感じています。

(マリス・ステラ CLC 世話人 西新教会 安藤智子)



対面と遠隔の併用で

新年「神の母聖マリア」そして「世界平和の日」 平和の職人となれますように



年頭、カテドラルで語る司教

2022年元旦、今年もコロナ禍での制約が続く中、カテドラル大名町教会に約180人の信徒が参集した。例年の半分にも満たなかったが、コロナ対策のため距離を取った席が足りなくなるほどであった。

1月1日は「神の母聖マリア」の祭日。この日の福音にまずアベイヤ司教は「ここでも羊飼いたちが登場します」と切り出した。「天使の呼びかけに、初めは恐れおののいていた羊飼いたちは、喜びのうちに帰って行きました。なぜでしょう。イエスと出会ったからです」と、イエスと出会うことについて語った。そして、その場にいてイエスを静かに見ていた聖マリアに触れ、「私たちも母に見守られていることを想いながらこの1年の歩みを始めたい」と述べた。



「歓迎」の横断幕を用意してお待ちしていました！

「歓迎」の横断幕を用意してお待ちしていました！

アベイヤ司教 司牧訪問

コロナ感染症のため何度も予定変更を余儀なくされた戸畑教会共同体より、喜びもひとしおの感激の音が届けられた。

戸畑教会

大名町教会。お正月の帰省でしか会えない懐かしい顔にも、一瞬の会話のみで別れを惜しみながら、コロナの終息も願い足早に教会をあとの姿があとこちで見られた。2022年1月2日(日) 主の公現の祭日、快晴の空の下、アベイヤ司教が戸畑教会を来訪した。福岡教区に着座後、精力的に小教区を巡回し、いよいよ戸畑教会へ。コロナパンデミックの影響により3回の予定延期を乗り越えての来訪である。

ようこそ、福岡教区へ！ 聖ドミニコ修道会 ミャンマーからの助祭

箱崎教会では、現在ミャンマーから2人の助祭が司牧にあたり、今年3月21日(月・祝)に、カテドラル大名町教会に於いて司祭に叙階される予定である。今回はこの2人に、自身の召命や今の気持ち、そして母国のことなどについて話を聞いた。

ピーター ジャー・レ助祭



私はミャンマーの中東部にありロイカウという小さな町の近くにある、小さなカトリックの村で生まれ育ちました。5人兄弟の中で長男です。聖ドミニコ修道会に入る前は、ミャンマーの遠隔教育大学で地理を専攻していました。そのうちに、神の国のために、「証し、説教、キリスト教の価値観」を教えることを通じて人々に伝え、教会のために働く宣教師になりたいと思い、聖ドミニコ修道会ロザリオの聖母管区に入ったのです。マカオの聖ヨゼフ大学で哲学と神学を学び、2019年7月に卒業しました。そして、香港で修練を行いました。同年に荘厳な誓いを立てました。その年の9月にミャンマーでディアコナリ(助祭)に叙階され、その後2020年に日本に来ました。

アシジのフランシス ブリン助祭



私は1995年1月15日に、ミャンマーのチン州ミンダ郡マクイムヌ町に生まれました。兄弟は8人で、私は3番目です。ミャンマーの高校を卒業した後直後2013年に聖ドミニコ修道会に入会しました。2020年8月8日にマカオの教育機関での研究を終えた後、私は厳肅な使徒職につきました。2020年12月にジョン・トン・ホン枢機卿、および香港教区の教区管理者によって助祭に叙階されました。2021年1月に日本に来て、今は聖ドミニコ修道会の修道院がある箱崎教会に住んでおり、福岡YMCA日本語学校で日本語を勉強しています。

計報

ベルナルド 稲垣 良典氏

1928年生まれ。1月15日帰天。享年93。古賀教会信徒。九州大学名誉教授。中世スコラ哲学研究の第一人者。『神学大全』の訳者の一員で、関連著書を多数刊行。福岡教区報にも、示唆に富む寄稿や連載を多数頂戴した。1972年から2021年の40年間という長きに渡り、福岡サン・スルピス神学院や日本カトリック神学院、福岡カトリック神学院にて、哲学科講師として尽力され、昨年11月の入院直前まで教鞭を取った。

稲垣先生を偲んで

私の先生との出会いは大神学校哲学科生時代です。そのころ先生は九州大学で哲学を教えていらつしやいました。山内清海神父(当時の院長)の招きで、大神学院にも講義にいられていました。先生からは多くの教えを頂きました。特に信仰と理性の調和が可能なことを、その教えと生きた姿から示していただきました。先生は要点を手書きしたカードを手に持ち講義をなさっていました。その内容は深く味が有り、神の存在と恵みに直結するものでした。先生に信仰の基盤を固めていただけたと思います。先生の質問はいつも鋭いものでしたが、決しておごりを感じさせない温厚で謙遜な人でした。

福岡カトリック神学院 大山 悟神父

Rosanna FILIPPINI 氏

聖ザベリオ宣教会のレナト・フィリッピニ神父(玉名・荒尾教会主任)のご母堂が1月9日帰天。享年75。ご母堂ロザンナ様の永遠の安息をお祈りください。

不動産全般/売買・賃貸・管理
(株)ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

総合建築業
・一般住宅(新築・改築工事)
・鉄骨工事
・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ 森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎(092) 811-7265

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリーロード赤一丸
薬院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店
0120-45-1616

別れ・出逢い・旅立ち
草苑(SOU-EN)
カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

人生の多感な時を過ごす中学・高校時代。学業と信仰教育の結びつきについて、その様子や課題などを現場から月替わりでご寄稿いただく「ミッションスクールの今」。第8回目は福岡県福岡市にある福岡雙葉学園中学・高等学校に話を伺った。

### 福岡雙葉学園中学・高等学校 (福岡県福岡市)

本校の設立母体である女子修道会「幼きイエス会」を創立したフランス人司祭ニコラ・パレ(1621~86)は、北フランスのアミアンに生まれました。司祭に叙階後はパリで社会的に小さくされた人々のための活動に勤めますが、伝染病のまん延や経済不振による生活困窮、さらには宗派間対立による戦争の激化等の当時の状況がパレ神父の激務に拍車をかけ、心神耗弱を来して病床に伏すことを余儀なくされました。快癒後にはルーアンに異動、そこで目の当たりにしたうらぶれた子どもたちの様子が彼の志に再び灯をともし、彼らのための無月謝学校を郊外の村に設立します。教会で奉仕する若い女性たちの支援を得ながら彼の学校はルーアン市内に広がっていき、ここに「幼きイエス会」の活動が始まりました。パレ神父の学校はその後パリをはじめフランス全土へ、ついには4大陸16カ国に広がっていきました。日本には1872(明治5)年、マザー・マチルドをはじめ5人のシスターがわが国最初の修道女として来日し、横浜をはじめ東京、静岡、福岡、田園調布の順に女子学校が設立されていきました。本校の創立は1933(昭和8)年で、今年マザー・マチルドたちの来日150周年、来年には本校創立90周年を迎えます。



- 8 -

本校では教育活動の根幹を生徒たちの「Global Citizen」(神の恵みに感謝し、地球社会の一員として自覚し、行動する人)への成長としています。「黙想とお祈り」、「宗教」の授業や「ミサ」「黙想会」「キャンドルサービス」等の行事を通して、



神さまと自分自身に向きあって自分に注がれている恵みを感謝とともに感じ、それを隣人への愛とりわけ社会の中で小さくされ苦しんでいる人々のために福祉施設への訪問や街頭募金、生活支援品の収集等の「奉仕活動」を行なっています。コロナ禍によりこれまでどおりの実施が厳しくなりましたが、オンラインの活用や生徒たちの主体的な発案や創意工夫によって、かえって普段以上の気づきや学びを得ることができました。これまでの普通が当たり前でなくなったとき、感謝とともに今できることを考え、愛をもって行動していく。これからの時代に合ったGlobal Citizenとして、雙葉生たちは現在進行形で成長中です。パレ神父の熱情と志は、マザー・マチルドをはじめ幼きイエス会のシスターたちを経て、ここ福岡の地で子どもたちに注がれています。(宗教部 中馬 隆史)

グローバルシチズン

キャンドルサービスも新スタイルで

「黙想とお祈り」、「宗教」の授業や「ミサ」「黙想会」「キャンドルサービス」等の行事を通して、神さまと自分自身に向きあって自分に注がれている恵みを感謝とともに感じ、それを隣人への愛とりわけ社会の中で小さくされ苦しんでいる人々のために福祉施設への訪問や街頭募金、生活支援品の収集等の「奉仕活動」を行なっています。コロナ禍によりこれまでどおりの実施が厳しくなりましたが、オンラインの活用や生徒たちの主体的な発案や創意工夫によって、かえって普段以上の気づきや学びを得ることができました。これまでの普通が当たり前でなくなったとき、感謝とともに今できることを考え、愛をもって行動していく。これからの時代に合ったGlobal Citizenとして、雙葉生たちは現在進行形で成長中です。パレ神父の熱情と志は、マザー・マチルドをはじめ幼きイエス会のシスターたちを経て、ここ福岡の地で子どもたちに注がれています。(宗教部 中馬 隆史)

## 福岡教区内の殉教者を偲んで

「日本のカトリック教会は、殉教者の血から生まれ、殉教者の血のうえに立てられたといっても過言ではありません。」(カトリック中央協議会 殉教者列福調査特別委員会) 今号より福岡教区内各地区の殉教者にスポットを当て、彼らの信仰と希望、そして愛を思い起こし、私たちに求められる歩みを黙想したい。

### 日本二十六聖人 長崎への道を歩いて

大名町教会 浜崎公夫  
『日本二十六聖人長崎への道巡礼マップ』に魅せられ、ザビエルが日本にキリスト教を伝えた平戸から博多までの布教の道、そして日本二十六聖人が歩いた京都から長崎までの殉教の道を一気に歩いた。布教の道がやがて殉教の道となる十字架の道行き。「一粒の麦地に落ちて死ねば多くの実を結ぶ」。正にそ

の道には、聖人たちの教会が各地に建っていた。巡礼最後の日、聖地・西坂の丘には天を仰ぐ二十六聖人のブロンズ像。そして記念館の入り口では日本の宣教の保護者フランシスコ・ザビエルが私を出迎えてくれた。京都からの1050キロに及ぶ見せしめの道は、主イエスの十字架の道の体験でもあった。ザビエルをはじめ、二十六聖人、多くの殉教者たちが私たちの国の礎となった。福岡教区の西新教会の祭壇

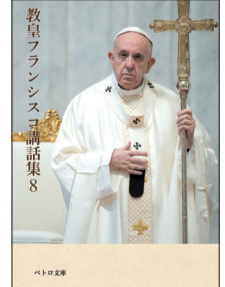
にはパウロ三木をはじめ4聖人の遺物が埋め込まれている。国も年齢も職業も異なる共同体は、天の国を目指して、雪の舞う日本海、厳しい長崎街道を糸乱れぬ思いで歩いたのであった。この九州路を歩き黙想することは、私たちにとってとても意義あることだと思ふ。長崎への道は、「神と和解し、自分と和解し、人間が相互に和解し、神が創造された自然と和解するための道でもある」とイエズス会、梶山義夫神父は言う。二十六聖人を思い、無心になれた心は、感謝の心、挑む勇氣、福音を宣べ伝える熱意に代わっていった。カトリック中央協議会推奨『日本二十六聖人長崎への道巡礼マップ』この本を片手に旅

「手を手に、巡礼の旅に出かけてみてはどうだろう。」  
小倉の殉教者  
小倉教会主任 深堀勝人  
日本のカトリック教会の歩みの中には多くの殉教者を見いだすことができます。典礼でも、福者ユスト高山右近、日本26聖人、福者ペトロ岐部、司祭と187殉教者、日本205福者、聖トマス西と15殉教者を記念して祈ります。それだけではなく列福、列聖とされている多くの殉教者が各地におられることをよく見聞します。今、福者デイエゴ加賀山準人を殉教者にいただく教会で働かせていただきながら、福者の思いに心を馳せることができましたらと思っています。当時(1600年頃)信徒が2000人余りいたと言われる小倉でキリシタン家老と

して過ごし、家庭を大切にしていた福者デイエゴ加賀山準人(1619年10月15日殉教・斬首)。彼の信仰は熊本の小笠原玄也・みや(娘)と引き継がれて行きます。25年ほど前、デイエゴ加賀山準人顕彰奉仕会が発足しました。小倉の地で殉教したことは記録にあつたと思ひますが、日本の司教団の列福申請の188人の中に挙げられ、顕彰と祈りが小倉の地で始まりました。ただ司教団が申請し、福者としていただくのではなく、私たち信徒も祈りと犠牲のうちに列福を願ひ、1998年5月には殉教地碑、1998年10月殉教顕彰碑が設置され、殉教した10月には列福祈願ミサが毎年捧げられました。2008年11月、列福されてからは殉教者とともにあゆみ、小倉教会新聖堂建設にあつては「みんなで作ろう。みんなの教会。聖母マリアとデイエゴ加賀山準人に支えられて」というスローガンのもと歩んでいきます。殉教者は遠い存在ではな

く、私たちの日々の生活なかで、いつもともにある存在でありたいと思ひます。また、2019年10月14日には、北九州地区信徒使徒職協議会主催で、大分教区の故浜口末男司教様に司式をお願いし、殉教400年記念ミサを捧げました。郷土の殉教者を身近に感じ、祈り、信仰と愛のうちにともに歩むことを大切にできたらと思ひます。ところで、9月10日に記念する日本205福者殉教者の中に1620年8月16日に小倉の地で殉教(穴吊り)した福者シモン清田朴斎、妻・マダレーナ清田、家来・トマス源五郎、妻・マリア、子・ヤコブも忘れてはならないと思ひます。※小倉教会には、福者デイエゴ加賀山準人のリーフレットを置いてあります。

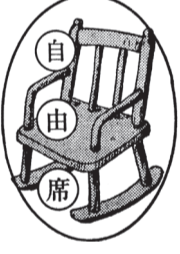
2020年内の発言を集めた講話集。新型コロナウイルス感染症のパンデミックという特殊な状況下に、動画配信で、またはごく少数の会衆を前に行われた、希望と励ましに満ちた講話や説教。教皇は、何を語ったのか、説いたのか、訴えたのか、願ったのか。『問題の解決には、広い連帯と多くの創造性が必要です』付録として、使徒的書簡『聖書への思い』聖ヒエロニモ没後1600年記念』を収録。カトリック中央協議会発行 税込価格1320円



☆教皇フランシスコ講話集8 教皇フランシスコ(著)



「飢え」。いま、多くの人が飢えに苦しんでいます。飢えとは食べるものを連想されると思いますが、食べ物ではありません。声の飢えです。多くの人がコロナウイルスのために外出もままならない、人と話すこともできない、病気の人も、施設に入居の人も、家族との面会もできない状況にあります。コロナ発症から言葉の交わすことを奪われ、絶望の最中におられる人



### 愛の言葉を伝えよう 武蔵ヶ丘教会 岩元 治

もあると思います。教会でも、家族の中でも会話が失われている家庭もあるようです。私たちが気付かなければならないこと、隣人に声をかけることをためらっています。主の民である私たち、今こそあなたの一声を待っている人がいるのです。マザーテレサは「私の手を、足を、声をお使いください」と私たちに尊い言葉を残してくださいました。今、私たちにできる愛のある行いを実行する時です。身近な家族、友人、隣人、仲間、そして絶望のさなかにある人に励ましの言葉、何か一声を掛けたい、希望の光が見えるよう、教会に「愛の一声運動」を展開しようではありませんか。

☆人生を支え、老いを照らす 森 一弘(著) 超高齢化社会に向かつてまっしぐらにつき進んでいる日本社会の中で、誰もが戸惑い、不安に脅かされている。高齢者の孤独感、孤立感をどのように乗り越え、輝かせていけるか、それが老年期の大きな課題でもある。こうした現実の中で、改めて人間の幸せが何にあるのか、人間は何を目指して生きているのかを見極め、光と支えを見いだしていくために助けとなる書。 女子パウロ会発行 税込価格1430円



☆人生を支え、老いを照らす 森 一弘(著)

社会医療法人 雪の聖母会  
聖マリア病院  
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422  
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115  
聖マリアヘルスケアセンター  
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5  
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306  
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん  
ご一緒に働いてみませんか  
URL: http://www.st-mary-med.or.jp/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション  
自宅療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。  
春日市天神山 7-91 TEL&FAX 092-517-6313  
福岡プライマリケア株式会社 代表: エリザベト熊谷

キリスト教書籍・用品  
お買い物は365日、24時間 いつでもどうぞ!  
http://www.paulus.jp  
パウルスショップ  
メディアによる福音宣教のために...  
サンパウロ福岡宣教センター  
10:00~18:00(月~土)/日・祝日休業/地下鉄赤坂駅より徒歩3分\*駐車場完備  
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax.739-3930

本との出会い 人との出会い 神との出会い  
セント・ポール FUKUOKA  
キリスト教書籍・信心用具・ビデオ・DVD・CD  
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F  
平日/AM10時30分~PM3時  
日曜/AM11時~PM2時(定休日水曜・祝日)  
TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601  
URL: http://www.pauline.or.jp

年間目標 キリストの愛に駆り立てられて、人々とともに歩む教会

レジオマリエ発足 100周年 及び 福岡クリア設立 70周年 記念ミサのご案内



記念ミサとアチエス (北九州クリア合同)

主司式 ヨゼフ・アベイヤ司教

日時: 2月13日(日) 13時~ 場所: 光丘教会 問い合わせ先: 090-9654-9969 日吉 ※感染症の状況によっては中止となる場合もあります。

日本カトリック正義と平和協議会 全国会議 公開講演会「回勅『兄弟の皆さん』と現代世界」

日時: 3月4日(金) 18時~20時 (オンライン配信) 基調講演: アベイヤ司教 (福岡教区) 「回勅『兄弟の皆さん』と現代世界」 対談: アベイヤ司教 西村桃子さん (セルヴィエヴァンジェリー会員、『兄弟の皆さん』翻訳者) ※詳細は「日本カトリック正義と平和協議会」でご確認ください。 https://www.jccjp.org/

2021年度 聖マリア学院大学 公開講座

「コロナ禍をよりよく生きる」

日時: 3月12日(土) 13:30~15:00 講師: 船津亮太神父 (カトリック小倉教会) ◎受講希望者は事前申込みが必要です。(受講料無料) ◎感染対策上、会場での受講人数は各回30名(申込順) ◎オンライン(ZOOM)での同時配信あり ※詳細は福岡教区ホームページでご確認ください。 http://fukuoka.catholic.jp/account/20211111st-mary/

お詫びと訂正

教区報1月号4面「牢にいた時に訪れてくれた」をご寄稿くださったダ・ロイト・シルバノ神父様は ×山鹿教会主任 ⇒ ○菊池・山鹿教会主任 でいらっしやいます。関係各所の皆様には、ご迷惑おかけいたしました事を深くお詫び申し上げます。

福岡教区広報室アドレス http://fukuoka.catholic.jp E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

セコの会 セコの会では、手芸などを制作し、バザー等で販売してその収益でフィリピンの貧しい人々を支援しています。当会では作品作りに参加して下さるボランティアを募集しています。(日時) 毎週水曜日10時30分~16時(場所) 福岡市南区塩原4丁目

熊本地区召命を共に祈る会 (日時) 2月21日(月) 10時30分(場所) 手取教会(内容) ミサ(司式) 船津亮太神父(問合せ先) 090-949-2499 05 藤井

編集後記

年明け早々、仕事は「3月号」の編集会議です。正月気分も抜けないうちに、四旬節や叙階式の話。画像もそれらしい季節の物を探します。目に映る景色は冬でも「頭の中は春」でこんがらがりそうな毎日、事務所の玄関の梅の花が1輪、また1輪ともう咲き始めました。神様が「迷わないように」と、ちゃんと見守り導いてくださいます。「神のわざを思い起こそう。力ある不思議なわざ」(w)

案内板

会合と催し

2月のこよみ

教区報の楽しみ方

「カトリック福岡教区報」は現在、概ね以下の内容で構成されています。1面・2面 司教メッセージ、教区関連(課題や行事、お知らせ) 3面 各地区小教区や団体のイベント、トピックなど 4面 お知らせ、コラム 「みちくさ」は、現在は教区報・編集長が執筆 「時の話題」は、文字通りその時に合った内容で、主に典礼や毎月の祈りの意向を反映 「自由席」は皆様からのご寄稿 ・コラムや連載などは、随時 ※尚、現在紙面の中間はモノクロですが、教区ホームページでは、全てカラーでご覧いただけます。ともに歩む教区報であるためにも、皆様からのご意見やご要望を反映しながら、毎月楽しみにしていただけるような紙面を目指して参りたいと思います。「声」をお待ちしています。左下、広報部広告の写真やイラストも引き続き募集中です。

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ: イエス様のように祈る 日 時: 2月10日(木) 10時~15時 内容: 「私が父の家にいるのは」(ルカ2・49) 指導者: S. フランコ神父(聖ザベリオ宣教会) 問い合わせ先: 真命山諸宗教対話センター 次回: 3月10日(木) 「イエスも洗礼を受けて祈っておられると」(ルカ3・21) ☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7 E-mail shinmeizan@gmail.com ☆個人またはグループでの懇話会、研修会も歓迎いたします(要予約)

福岡

福岡カルメル在世会 (日時) 2月9日(水) 19時30分~21時(内容) ズームによる月一集会(講話ウイリー・ソバ神父、上野毛教会)(問合せ先) 092・861・4802 海江田

師イエス祈り会 (日時) 2月18日(金) 10時~12時(場所) 高宮教会・小聖堂(問合せ先) 090・7468・3631 西田

美野島司牧センター (日時) 2月26日(土) 10時~12時(場所) フランシスコについて

北九州

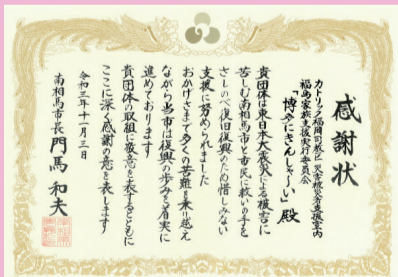
北九州召命を共に祈る会 (日時) 2月10日(木) 14時から(場所) 小倉教会(内容) ミサ(司式) 船津亮太神父(問合せ先) 090-949-2499 05 藤井

- 2日(水) 主の奉獻 ↑マテオ山川辰幸(2002年 二日市教会) ↑J.オマラ(2003年) ↑使徒ヨハネ草野純英(2021年) 3日(木) 常任司教委員会 福者ユスト高山右近殉教者 ↑A.テムペリーニ(2018年 ロザリオの園) 4日(金) ↑G.プレシュト(2019年 御受難修道会) 5日(土) 世界奉獻生活の日の講話とミサ 日本26聖人殉教者 常山教会司牧訪問(~6日) 6日(日) 年間第5主日 11日(金) 世界病者の日 ↑ペトロ高木善行(2015年 久留米信愛女学院短期大学) 12日(土) ↑ラウレンシオ岩永義人(2009年 今村教会) 13日(日) 年間第6主日 光丘教会司牧訪問 レジオマリエ100周年・福岡クリア70周年感謝ミサ ↑B.ウオード(2019年 御受難修道会) 14日(月) 定例司教総会(~18日) 16日(水) ↑ペトロ夫津木昇(2020年 聖パウロ修道会/老司教会) 20日(日) 年間第7主日 23日(水) 長崎大司教区・大司教着座式 26日(土) 小郡・鳥栖教会司牧訪問(~27日) 27日(日) 年間第8主日 【3月】 2日(水) 灰の水曜日(大斎・小斎) カテドラル・ミサ司式 四旬節愛の献金(四旬節中) 4日(金) 正義と平和全国会議(~5日) 18時~20時 アベイヤ司教基調講演 「回勅『兄弟の皆さん』と現代世界」(オンライン配信) ↑E.グリフィン(2014年 手取教会) ■ゴチックは司教日程

2月11日(金・祝) 世界病者の日

福島家族支援実行委員会 「博多にきんしゃ〜い」 南相馬市より感謝状をいただきました

2011年東日本大震災及び福島第1原発事故により多くの人々が故郷を追われ避難生活を余儀なくされました。福岡地区女性の会は、福岡に避難されてきた親子の悲痛な声を聞き、更に日本カトリック司教団から出された「今すぐ原発廃止を!」のメッセージ、日本カトリック女性団体連盟(日カ連)からの被災者支援の要請を受け、話し合いを重ね保養目的プログラム「博多にきんしゃ〜い」を立ち上げました。その後、活動は福島家族支援実行委員会に引き継がれ、避難生活をしてきた方々、困難な状況の中でも福島で生活していた方々延べ150人が福岡に来ていただきました。参加した子ども達の笑顔そして「友達がいっぱいできました。ぼくは福岡に行けてよかったです(小5)」「南相馬の海も9年ぶりに海開きしましたがまだ入ったことがなく福岡のきれいな海に入れてとても嬉しかったです。海の水がこんなにしょっぱいなんて。そして冷たくて気持ちよく泳いだり、生き物を見つけたりするのはとても楽しかったです(小6)」「教会に初めて行き、ミサに参加しましたが、みなさんがとても親切でした」等、寄せてくれる子ども達の声が私達の励みでした。2019年10月には、カリタス南相馬の場所を借りて今までの参加者と同窓会を行いました。そこでは確かな繋がりがそして子ども達の成長を感じました。そしてそのような活動に対し、福島県南相馬市よりこのたび、感謝状をいただきました。現在コロナ禍で、夏の暑中見舞いやクリスマスカードなどでのやり取りしかできていませんが、「博多にきんしゃ〜い」参加のご家族から子どもたちの近況報告、また本人からの手紙が届きます。「博多にきんしゃ〜い」を支えてくださった多くの青年達、そしてボランティアの皆さんに感謝申し上げます。「博多にきんしゃ〜い」の活動が新たな活動に発展することを願いながら感謝状を頂きたいと思っております。



南相馬市から届いた感謝状

実行委員一同

福岡教区・広報室からのお願い

皆様のベストショット(風景や季節の植物、動物 etc)や、イラストをお寄せください。趣味で撮影された写真や書き溜めたイラスト(カトリック関係のもの以外でも、景色や似顔絵 etc)など大歓迎!教区ホームページの「音声説教」の背景写真や、教区報の挿絵、教区内(小教区、修道会、関係各所含む)配布の刊行物などに使用させていただきます。作品は誰でも使用出来る「著作権フリー」の素材としてご提供をお願いいたします。送付方法は、広報室へメールに添付いただくか、直接郵送のどちらでも構いません。カトリック福岡司教区 広報室(cdf-kouhou@nifty.com) 〒810-0028 福岡市中央区浄水通6-28 カトリック福岡司教区本部事務局 広報部。

私たちと一緒に おはなしませんか? 安心してお話が出来る人をお探しの方へ。メール: hanahanahimawari2020@gmail.com ☎: 080-4735-6971 (9:00-21:00) ※対応できないときもあります。 ※原則1回30分です。LINE 右記 QRコード 一ぶろじゅくとHana ぶろじゅくとHanaは、社会福祉士・看護師・シスターなどが在籍している。礼拝会を中心としたグループです。

福岡教区セクハラ対応窓口 セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談 セクシュアル・ハラスメント相談窓口 電話 080-2694-4182 受付時間 月~金(祝日を除く) 10:00~12:00 13:00~16:00